

業務の新聞

第44号 2019年 7月 12日

問題提起です。

ライフサイクルで駅職場で頑張っている方が今日職場に来ていきました、「今日は何?」「緊締幕の訓練です」ということでした。

申11号・申1号の交渉で支社の方と話になった、駅窓口遠隔操作などで産みだされた『一人職場』においての“異常時対応”についてここで改めて問題提起させていただきます。

- ① 『一人職場』での“ドア故障・緊締幕・回送扱い”などの取り扱いをどのように考えているのか?
- ② 『一人職場』に対する、指令からの指示は適切か?
- ③ 職場現実を無視した“運行優先” “指令優先”的な指示・指令になつてないか?
- ④ 受託会社における指示・指令はJR東日本の施策・業務を逸脱していないか?
- ⑤ 『指示・指令』する側が会社施策を把握しているか?

今後支社と建設的な論議を行い、安全と働き方などについて課題や疑問を払拭していきますのでよろしくお願ひします。

「地本立ち寄り行動」で貴重な意見もいただいていますのでシッカリと取り組んでまいります。

施策により生み出された職場現実と日々発生する現実が上意下達的な“歪み”を生じさせる危険をはらんでいます。

安全・正確・快適・サービスは、机上の空論では成立しません。常にお客様と接している現場の仲間たちが先頭に立って“より良いもの”を創造しなければ良い結果はついてきません。

もうひと頑張りお願ひします。

要求実現!

この間ことあるごとに「職場・施設の改善」について支社経営側と皆さんの声をもとに論議を続けてきました。

その一つの成果としてこの度、津田沼駅5・6番線ホーム男子トイレの“改良工事”がはじまりました。

工事完成までご不便をおかけしますが現場の声が届いたことを確認いただき、ご勘弁ください。

“昭和的トイレ”的改善一つで喜んではいられません。私たちの働く環境をさらに良くし、問題の解消と否定的現実の改善していかなければなりません。

運車職場では『新基地構想』に基づいた“線見”などもはじまるようです。この間経験してきたように、職場で座して黙っていても現実は“好転”しません。

気がかりなことは、地本に伝えると同時に現場管理者とドシドシ話していかないと「いつのまにか」「決まった話?」「社員の創意?」につくられてしまします。

皆さんからいただいている職場改善要求はまだまだ多くあります。皆さんの知恵と力をお借りして『改善・改良』を実現したいと考えていますのでよろしくお願ひします。

ダイヤ改正の検証!

地本業務部は、3月ダイヤ改正の検証を取り組みます。

皆さんの声をもとに各職場の問題点・改善点などを“申し入れ”とつくり上げ、「より良い職場」「より良い会社」を創造するために協力をお願いします。